



気象事業や気象情報に関わる気象事業者や報道機関などの機関が集まって運営されている気象振興協議会の総会が7月23日午後1時に東京都千代田区で開催されました。

木本新会長からは会員ともども気象事業の進展に努めたいとのご挨拶がありました。

記念講演では、「気象業務の現状と展望」と題して気象庁総務部 長谷川企画課長から講演をいただきました。昨年の九州北部豪雨など最近の激しい気象災害に対応して気象庁が防災気象情報の改善に努めてきて特別警報を創設するに至ったこと、その基準や考え方を解説されました。特別警報の創設に対し、市町村からは予報の精度向上が寄せられるなどの一層の予報精度向上がカギであるとして、LFM*など新たなモデルの開発をはじめ、観測データの気象庁ホームページでの提供など情報の開示にも努めているとのことでした。

*LFM … Local Forecast Model 局地モデル

(気象業務支援センター 振興部)